

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 132
2026年1～3月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2026.03.31-
HP <https://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 1～3月期（今期）業況判断DI値 悪化で推移

1～3月期の業況判断DI値は、前回調査比で21.2ポイント低下し、▲26.1と悪化した。前回予想値(▲22.3)も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で32.1ポイント低下の▲30.0、売上数量が31.1ポイント低下の▲31.4、利益でも25.4ポイント低下の▲31.7と、すべての項目で悪化となった。

今期DI値は前期に比べ悪化し、昨年同期(▲17.7)からもやや悪化となる。主要産業であるりんごの取扱いにより卸売業、運輸業において改善が見られる。一方で、収穫量の減少に起因する価格高騰や輸送量減少が下押し要因として作用しており一部慎重な見方もある。その他業種は閑散期に加え、大雪の影響もあり総じて悪化となった。全業種において物価高騰に加え、中東情勢の不安定化を背景とした燃料費上昇の対応に苦慮している。



業況お天気図

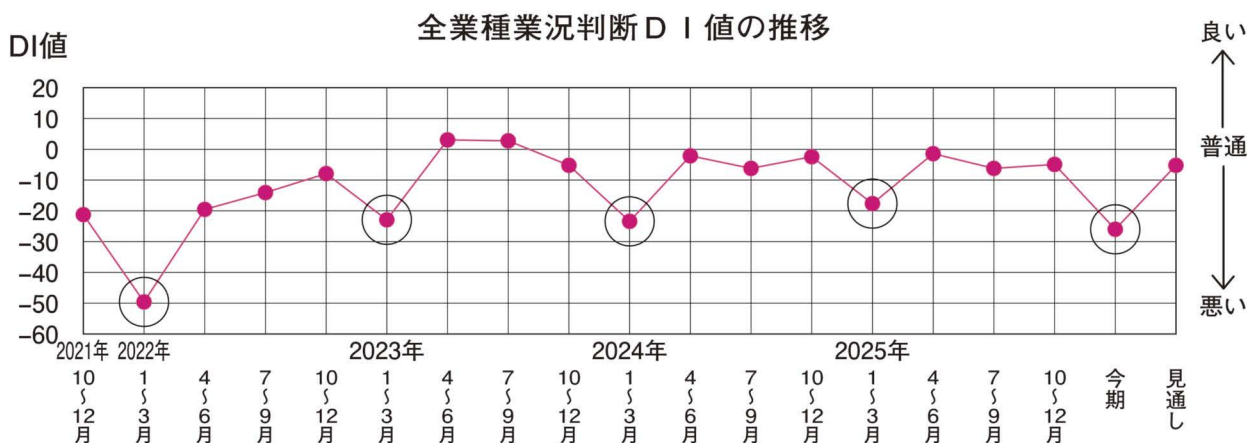
● 4～6月期（来期）各項目別DI値 改善を見込む

4～6月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比で20.9ポイント上昇し、数値は▲5.2まで改善する見通しとなった。項目別では、売上・受注で31.7ポイント上昇の1.7、売上数量が32.5ポイント上昇の1.1、利益でも25.4ポイント上昇の▲6.3となった。

業種別DI値は、ガス冷貯蔵の有袋ふじや春野菜等の取扱いにより、運輸業では横ばい推移の見通し。弘前さくらまつりやゴールデンウィークといった観光需要の高まりが見込まれることから、関連消費の拡大が期待されるため、その他の業種においても客足の回復および売上増加が想定され、業況は改善基調の見通しとなった。引き続き、物価、燃料費の高騰が経営環境に与える影響は大きく、コスト上昇への対応が重要な課題となっている。



業況予想お天気図



お天気図

好調 ←



→ 低調

(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数287企業（回答率98.97%）

概況

～総合的業況判断DI値悪化で推移～

総合的業況判断DI値は、前期比21.2ポイント低下し、▲26.1と悪化となった。

業種別での業況判断DI値は、運輸業が30.0ポイント上昇の0.0、卸売業が10.7ポイント上昇の▲17.9、飲食業が15.8ポイント低下の▲31.6、小売業が16.9ポイント低下の▲19.1、不動産業が22.2ポイント低下の▲44.4、建設業が27.6ポイント低下の▲15.5、サービス業が38.1ポイント低下の▲40.5、製造業が46.8ポイント低下の▲53.1となった。2業種が改善し、6業種は悪化となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」136先、「人員不足」97先、「売上の低迷・減少」92先、「利幅の縮小」63先、「経費の増加」55先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は4先減少、「人員不足」は4先減少、「売上の低迷・減少」は11先増加、「利幅の縮小」は14先減少、「経費の増加」は7先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が38先で前期比2先増加、設備投資実施予定割合は13.2%で前期比0.7%増加となった。業種別では、運輸業（機械・その他）30.0%、サービス業（土地・建物等）19.0%、飲食業（建物）15.8%、製造業（土地・機械等）15.6%、卸売業（土地・機械）14.3%、不動産業（土地）11.1%、建設業（建物・機械等）10.3%、小売業（建物・機械等）9.0%であった。

資金繰りDI値は、前回調査比で13.2ポイント悪化の▲21.6となる。今期借入した企業は17.1%と前回調査時（20.3%）より3.2%減少となった。

来期の見通し

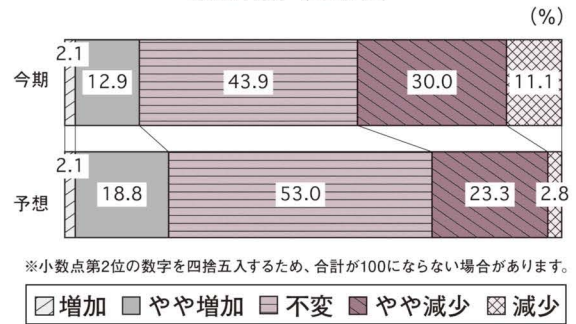
～総合的業況判断DI値改善の見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比20.9ポイント上昇し、数値は▲5.2まで改善する予想となった。

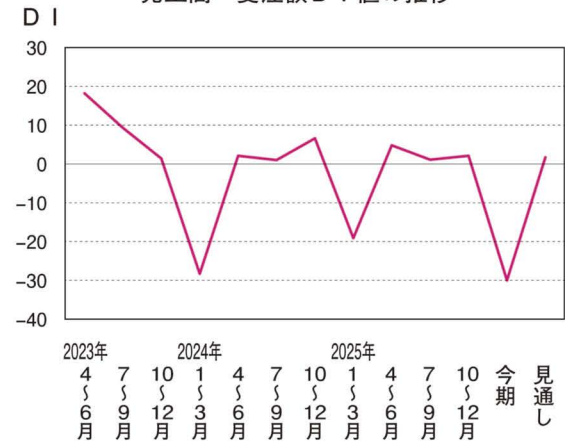
業種別では、不動産業が66.6ポイント上昇の22.2、飲食業が63.2ポイント上昇の31.6、製造業が37.5ポイント上昇の▲15.6、サービス業が35.7ポイント上昇の▲4.8、建設業が15.5ポイント上昇の0.0、小売業が5.6ポイント上昇の▲13.5、卸売業が3.6ポイント上昇の▲14.3、運輸業が横ばいの0.0となり来期の見通しは、7業種が改善し、1業種は横ばいとなった。

今期資金手当てした先が17.1%、今後資金手当て等借入を予定している先は16.0%となっている。

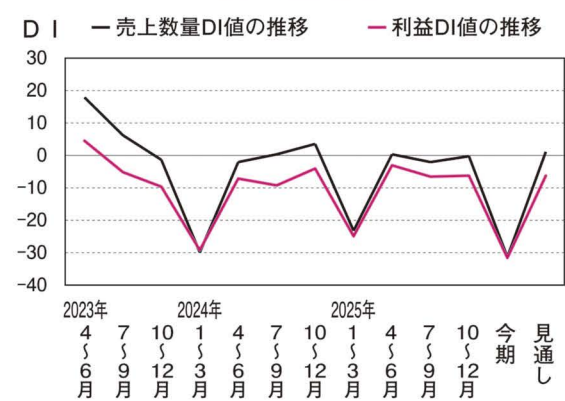
業況判断（全業種）



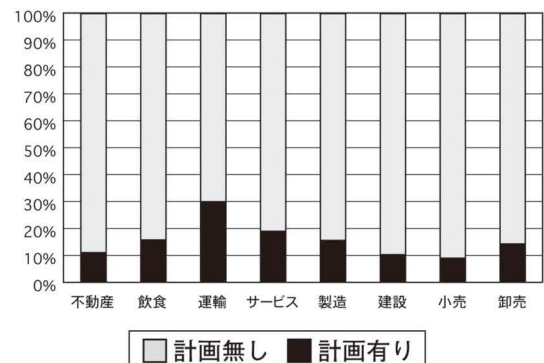
売上高・受注額DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業28企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で10.7ポイント上昇し、▲17.9まで改善した。前回調査時の予想値▲28.6を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で57.2ポイント低下の▲32.2、売上数量が46.4ポイント低下の▲25.0、利益でも39.3ポイント低下の▲25.0と、すべての項目で悪化となった。

主要産業であるりんごでは、上実の入荷数量少なく、高値が継続したことで仕入環境が厳しい状況となった。結果、販売数量が伸びず、売上・利益も悪化した。一方で、輸出関連では春節もあり、出荷はピークとなった。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

酒類卸売業では、年末年始の繁忙期も終わり、売上減少するも前年並みの売上は確保できた。

米穀卸売業では、在庫確保しているものの価格高騰により販売数量は低迷。引き続き市場動向に応じた価格等を検討していく。

自動車関連部品卸売業は、閑散期であったため売上・利益減少。来期は夏タイヤ需要期および各メーカーの値上げもあり、売上・利益増加見通し。

食料品卸売業（水産物）では、年末年始の繁忙期後、閑散期となり売上・利益減少も、来期は弘前さくらまつりやゴールデンウィーク等に期待する。

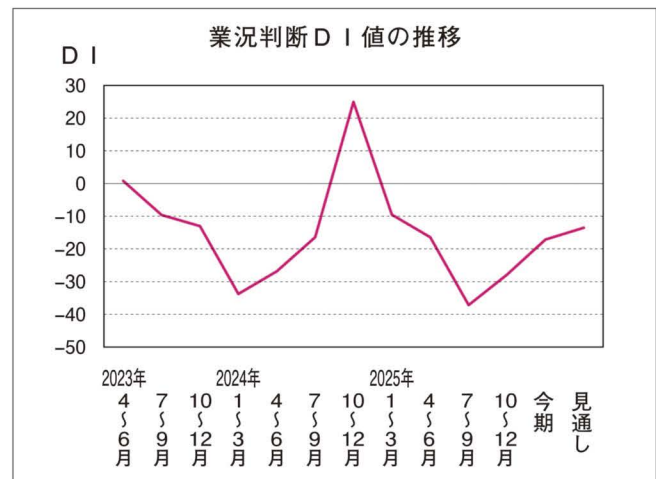
来期の見通し

～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で3.6ポイント上昇し、指数は▲14.3とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で39.3ポイント上昇の7.1、売上数量が32.1ポイント上昇の7.1、利益でも28.6ポイント上昇の3.6と、すべての項目で改善の見込みとなった。

りんごではガス冷蔵の有袋ふじが出荷となるが、入荷数量は例年に比べ少ない見通し。市場価格注視し利益確保に努める。



小売業

回答企業89企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で16.9ポイント低下し、▲19.1と悪化した。前回調査時の予想値▲23.6を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で30.4ポイント低下の▲22.5、売上数量が29.2ポイント低下の▲23.6、利益でも24.7ポイント低下の▲24.7と、すべての項目で悪化となった。

パレタイン等イベントや卒業シーズンにより菓子販売業および燃料販売業も需要期であり好調推移。一方、その他事業者は年末年始以降閑散期となり低調推移。大雪の影響もあり客足も鈍かった。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

青果物販売は、上実の商品不足から、贈答用りんごの販売が低調に推移した。

衣料品販売業では、学生服や高額な冬物衣料が好調に推移した。中東情勢により、輸入品の遅延等、今後の影響を心配する声も見られる。

コンビニは、大雪の影響による客足の鈍化および駐車場の除雪費用増加等もあり利益が減少傾向にある。

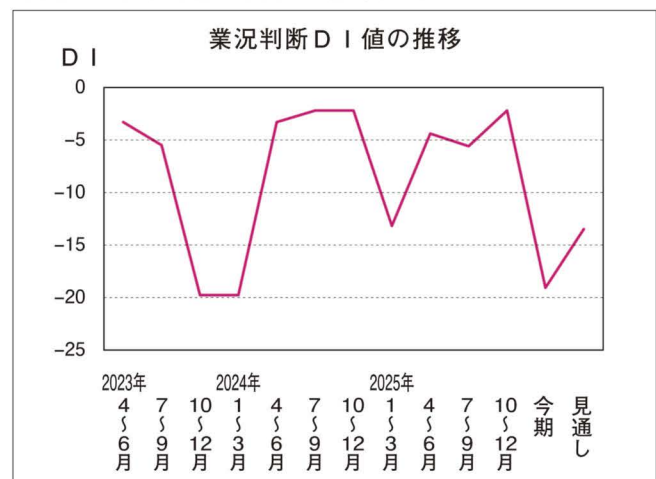
来期の見通し

～業況判断D I 値 やや改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で5.6ポイント上昇し、指数は▲13.5とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で10.1ポイント上昇の▲12.4、売上数量が12.4ポイント上昇の▲11.2、利益でも5.6ポイント上昇の▲19.1と、すべての項目で改善の見通しとなった。

燃料販売業は需要期を終えるが、その他事業者は弘前さくらまつり等イベントにより繁忙期となり期待している。一方で中東情勢等による仕入価格の更なる高騰に不安の声も見られる。



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で27.6ポイント低下し、▲15.5と悪化した。前回調査時の予想値0.0も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で36.2ポイント低下の▲29.3、売上数量が34.5ポイント低下の▲31.0、利益でも19.0ポイント低下の▲27.6と、すべての項目で悪化となった。
住宅建築業は、大雪の影響による工事遅延等もあり売上・利益ともに減少。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

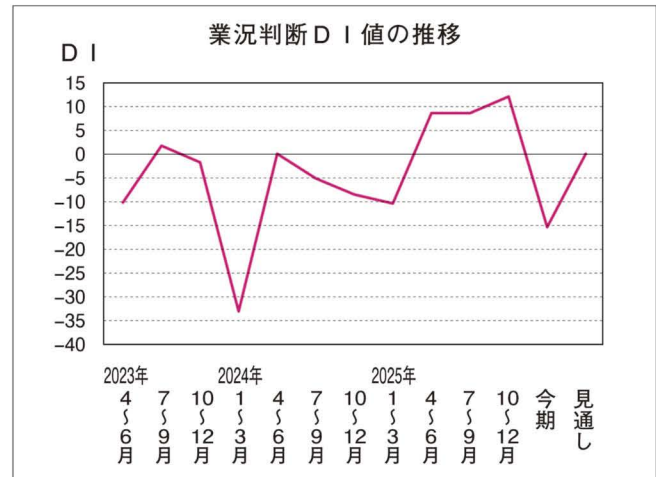
造園工事業では、雪囲い作業等により例年並み売上確保するも、資材や薬剤の価格高騰により利益を圧迫している。
電気工事業は大雪の影響による工事遅延も心配されたが、限定的であり、工事受注も例年並みに推移し、業況は横ばいに推移した。
土木工事業、管工事業は、工事受注については一定数確保するも人員確保に苦慮。除排雪請負業者は業況良好に推移。

来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で15.5ポイント上昇し、数値は0.0まで改善の見通しである。項目別では、売上・受注で27.6ポイント上昇の▲1.7、売上数量が25.8ポイント上昇の▲5.2、利益でも15.5ポイント上昇の▲12.1と、すべての項目で改善の見通しとなった。
雪解けとともに受注数は増加見通しであり、業況は改善に向かう見通しとなった。



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で46.8ポイント低下し、▲53.1と大幅悪化となった。前回調査時の予想値▲21.9も下回る結果となった。項目別では、売上・受注は46.9ポイント低下の▲40.6、売上数量が46.8ポイント低下の▲43.7、利益でも43.8ポイント低下の▲43.8と、すべての項目で大幅悪化となった。
鉄鋼加工製造業は、閑散期となり売上減少。食料品製造業では、りんごの品薄感から高値傾向が続いており値上げを実施。来期から値上げ効果で利益増加見通し。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

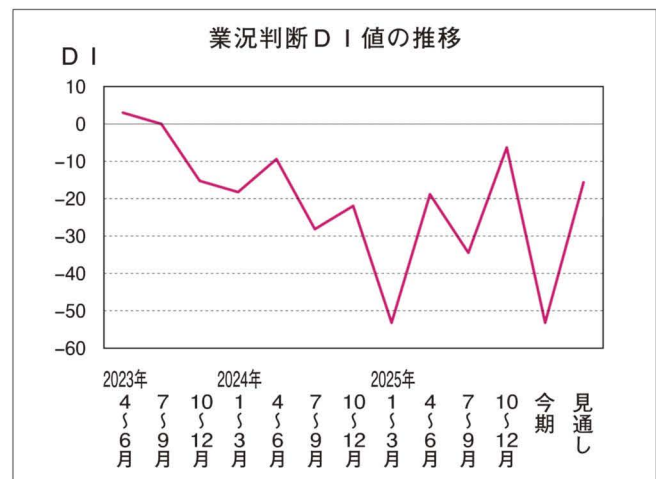
建設用金属資材製造業では、冬期間は例年受注が減少し3月後半から来期以降の受注増加。原材料高騰の影響により価格転嫁の時期を見計らっている。
生コン製造業では、冬期間となり業況低調推移。一方でコスト上昇への対策として値上げも実施した。雪解けも早く、来期以降は受注増加見通しであるが、値上げの影響が心配される。
木材、木製品製造業では、大雪の影響で工事がずれ込み、売上減少。来期は受注確保されており、売上・販売数量ともに増加見通し。一方で材料費の高騰は続く見通しのため経費削減に努める。

来期の見通し

～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で37.5ポイント上昇し、数値は▲15.6まで大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で46.9ポイント上昇の6.3、売上数量が46.8ポイント上昇の3.1、利益でも34.4ポイント上昇の▲9.4と、すべての項目で大幅改善の見通しとなった。
菓子製造業等、弘前さくらまつりに関係する事業者は売上増加を期待している。



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で38.1ポイント低下し、▲40.5と大幅悪化した。前回調査時の予想値▲21.4も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で21.4ポイント低下の▲26.2、売上数量が23.8ポイント低下の▲33.3、利益でも26.1ポイント低下の▲30.9と、すべての項目で悪化となった。
旅館、ホテル業では、閑散期に加え、大雪による来客数減少により売上減少。また、コスト上昇により利幅も縮小している。

分野別の状況

～総合的業況は大幅悪化で推移～

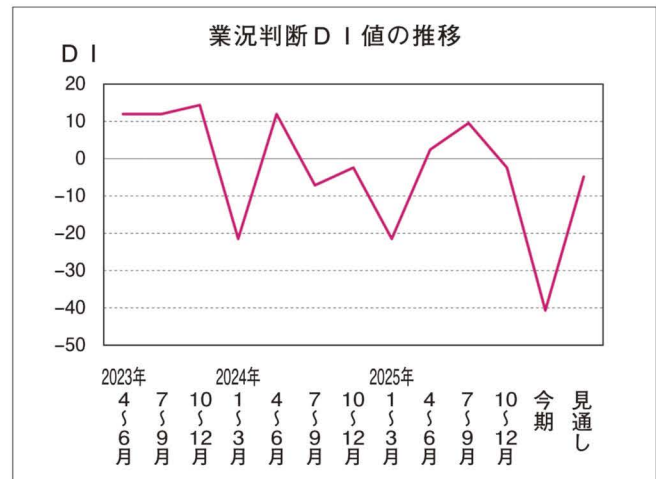
自動車整備、钣金業では、車検、修理依頼は例年並みに確保されるが、部品代等も高騰しており利幅は縮小。
農機具修理業では、冬期間は売上等減少。りんご剪定作業が始まるころから業況回復見通し。
自動車教習所では、最盛期となる時期であるが、進学率の上昇、大雪の影響等により高校生の動きが鈍く売上、利益ともに減少。

来期の見通し

～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で35.7ポイント上昇し、数値は▲4.8まで大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で35.7ポイント上昇の9.5、売上数量が38.1ポイント上昇の4.8、利益でも30.9ポイント上昇の0.0と、すべての項目で大幅改善の見通しとなった。
旅館、ホテル業では、弘前さくらまつりやゴールデンウィークといった需要期を控え、既に一定の予約客を確保していることから、今後の稼働率向上に期待している。



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比で30.0ポイント上昇し、0.0まで改善した。前回調査時の予想値▲50.0は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で横ばいの▲40.0、売上数量も横ばいの▲40.0、利益では10.0ポイント低下の▲50.0と、2項目で横ばい、1項目でやや悪化となった。
貨物運輸業は、りんごに加え、農作物の収穫量減少に伴い輸送量も減少している。価格転嫁はできているが、燃料費他その他経費増加もあり利幅は縮小している。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

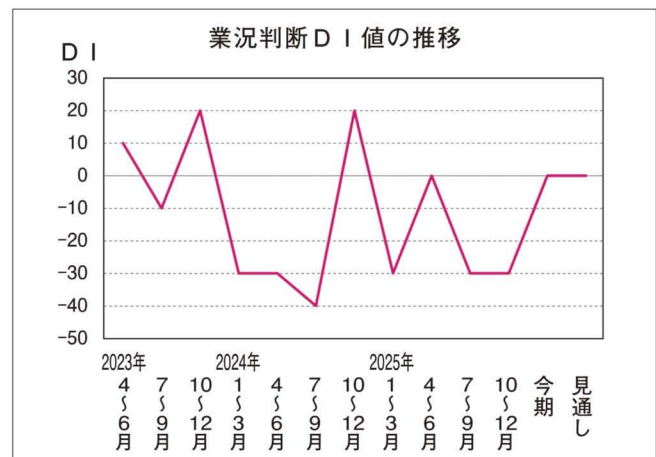
旅客運送業では、閑散期となるが例年並み売上は確保した。一方で、大雪を原因とする事故等により、車輻経費増加し利益を圧迫している。
建設資材運送業では、大雪の影響による設備修繕が増加し、大手電力会社からの受注が増加したことで、増収増益となった。

来期の見通し

～業況判断D I 値 横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比横ばい推移の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント上昇の▲10.0、売上数量が30.0ポイント上昇の▲10.0、利益でも20.0ポイント上昇の▲30.0と、すべての項目で改善の見通しとなった。
貨物運輸業は春野菜等の取扱いも増加するため業況回復の見通し。一方で中東情勢の不安定化を背景とした燃料費高騰を心配する声も見られる。



飲食業

回答企業19企業

概況



～業況判断D I 値 悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比で15.8ポイント低下し、▲31.6と悪化した。前回調査時の予想値0.0は下回る結果となった。項目別では、売上・受注で15.8ポイント低下の▲42.1、売上数量が15.8ポイント低下の▲42.1、利益でも10.5ポイント低下の▲52.6と、すべての項目で悪化した。
大雪の影響により来客数が減少、予約のキャンセル等も発生し売上が減少した。仕入価格の高止まりもあり利益も減少傾向である。

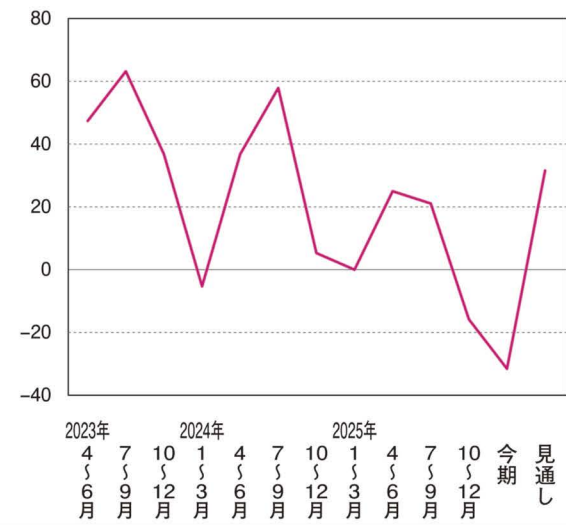
来期の見通し



～総合的業況判断は大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で63.2ポイント上昇し、31.6まで大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で84.2ポイント上昇の42.1、売上数量が94.7ポイント上昇の52.6、利益でも100.0ポイント上昇の47.4と、すべての項目で大幅改善の見通しとなった。
弘前さくらまつりやゴールデンウィーク等の観光需要の高まりが見込まれることから売上、利益増加見通し。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断D I 値 悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比で22.2ポイント低下し、▲44.4と悪化した。前回調査時の予想値▲11.1も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で11.1ポイント低下の▲44.4、売上数量が22.2ポイント低下の▲44.4、利益でも11.1ポイント低下の▲44.4と、すべての項目で悪化となった。
1月から2月は閑散期となるため売上等減少。大雪の影響も加わり、例年よりも来客数が減少した。

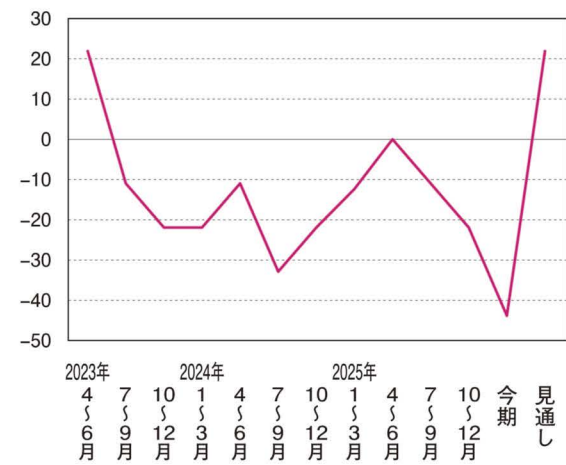
来期の見通し



～総合的業況は大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比で66.6ポイント上昇し、数値は22.2まで大幅改善の見通しである。項目別では売上・受注で66.6ポイント上昇の22.2、売上数量が66.6ポイント上昇の22.2、利益でも66.6ポイント上昇の22.2と、すべての項目で大幅改善となった。
3月から新生活に向けた動きが活発になるため業況回復見通し。建売・中古物件の住宅関連も例年並みに推移見通し。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2026年3月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内287社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、「変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。